

美術に即した文化的・国家的自己同一性の追求・形成の研究
Research on Pursuit and Formation of Cultural and
National Identity Focusing Constructed in Figurative Arts

小川 裕充 (OGAWA HIROMITSU)

東京大学・東洋文化研究所・教授



研究の概要

本研究は、「美術に即した文化的・国家的自己同一性」が、美術の制度のみではなく、その造形性を踏まえて、追求・形成されることを明らかにしようとするものである。現在は、絵画・彫刻・建築という美術の三分野において、その前提となる、実作品の包括的な海外調査を進めており、各分野で膨大な画像資料や文献資料を集積しつつある。

研究分野： 東アジア絵画史

科研費の分科・細目： 哲学・美学・美術史

キーワード： 美術史 アジア 文化 国家 自己同一性

1. 研究開始当初の背景

日本近代美術史研究が、対象をもっぱら日本近代美術のみとし、その影響ももっぱら西
欧美術のみから論じて、「研究」と称しており、当然、影響を受けたであろう、江戸時代
以前の日本の伝統絵画は勿論、日本のそれに
大きな影響を与えつづけてきた中国や韓国
の伝統絵画にも全く無知なまま、得々として
恥じない、奇怪な現状を呈することに、東ア
ジア絵画史研究者として、はなはだ疑問を感
じたことが、研究開始当初の背景としてある。

2. 研究の目的

本研究の目的は、「美術に即した文化的・
国家的自己同一性の追求・形成」が、国家に
よる美術館・博物館や美術学校の開設、展覧
会などの開催といった制度的なものだけが、
重要であるのではなく、作家自身が、追
求する伝統絵画から継承する多様な造形性
と、それを離れて創造する同じく多様な造形
性の二種の造形性の併存こそが、文化的・国
家的自己同一性追求・形成の根幹をなすこ
を示すことにある。

3. 研究の方法

研究の前提となるのは、実作品の調査研究
による画像資料と文献資料の集積であり、絵
画班・彫刻班・建築班に分かれて世界的な海
外調査を行い、その成果の整理の後、文献資
料を補足的に用いつつ、画像資料の研究に入
る。研究方法は、膨大な画像資料に共通する
造形性と共通しないそれを見出すことであ
り、上記の根幹を示すことにある。

4. これまでの成果

【2007年度】

本年度、絵画第一班：小川・板倉・西上は、
アメリカ・カナダの公私のコレクション 20
個所に所蔵される中国絵画約 1500 点の調査
撮影を行いつつ、各地の美術館・博物館の収
集方針の把握に努め、合わせて各館のフロ
ア・プランの小冊子を収集した。本方針は、
各年度に亘る。また、適宜、国内調査を進め
た。第二班：後小路は、福岡アジア美術館所
蔵の朝鮮美術展図録などを調査した。第三
班：榎屋は、ルーヴル美術館など 2 個所で、
ペルシア・タイル作品の調査を実施し、資料
約 350 点を手入・整理の後、ペルシア語銘文
解説を行った。

彫刻第一班：浅井は、東京国立博物館収集
東南アジア彫刻スライド資料整理を継続し
つつ、その補充調査として、タイなど 3 カ国
の彫刻調査を実施した。調査個所はバンコク
国立博物館など、34 個所である。

建築班：大田は、ライデン大学など 10 個
所で調査を実施し、宗主国と植民地の建築に
関わる基礎資料などを収集した。

本年度は、これまで積み重ねてきた萌芽研
究・基盤研究 (A) の成果を承け、絵画・彫
刻・建築班が分担して世界調査を実施するこ
とが出来た。

【2008年度】

絵画第一班：小川・板倉は、大英博物館
など、ヨーロッパの公私コレクション 20 個
所に所蔵される中国絵画約 860 点の調査撮影

を行った。また、西上とともに、適宜、国内調査を進めた。総点数 860 点のヨーロッパ調査で最大の収穫は、大英博物館調査の際に、極めて良質の所謂チャイナ・トレード・ペインティングがあることがわかった点にあり、本調査に基づく『中国絵画総合図録 三編』にこれらの作品が収載されれば、中国絵画史研究の新分野として認められることは疑いない。また、第三班：柵屋は、インド・イスラム史跡写真資料約 1700 点の整理を開始し、シアトル美術館所蔵のタイル写真資料を整理した。第四班：井手は、高麗仏画による自己同一性追求について、韓国で研究発表などを行った。第五班：田中は、オーストラリア美術における自己同一性の問題を考察した。

彫刻第一班：浅井と第二班：朴は、前述のスライド資料整理を継続しつつ、共同で、中国彫刻作品調査を実施した。調査個所は雲南省博物館など、29 個所である。

建築班：大田は、マレーシア・セネガル・アメリカにおいて、国立公文書館など、三カ国総計 13 個所の建築の調査撮影、関連資料の収集を行った。

【2009 年度】

本年度は、原資が前年、前々年に比して、少ないため、海外調査は絵画第一班：小川・板倉のみに限り、他班は、すべて、2007・08 年度の調査資料整理や個人研究に徹した。その対象は、以上の成果報告に示すとおりである。それに対して、絵画第一班は、メトロポリタン美術館・ボストン美術館・ピーボディ・エセックス博物館 3 館のみに集中し、中国絵画調査を行った。その成果は、概数で、メトロポリタン美術館については、補充調査として、35 点、ボストン美術館の千点は、撮影料の問題で、既刊の『中国絵画総合図録』『同 続編』（東京大学出版会）には収載されておらず、双方にとって、30 数年来の懸案であった。

今回、ボストン美術館側からの 700 点ほどの作品の画像ファイルの提供を受け一方、本格的な調査を始めて行うことができたのは、ハーバード大学ユキオ・リピット準教授（日本美術史）の仲介によってである。ただ、その本格的な調査とは、ボストン美術館創設以来、収蔵庫に眠ったままの作品 300 点ほどについて、小川が鑑定しつつ、悉皆調査し撮影を行うものであったとはいえ、明治初期に日本から流出したものと思われる、元代から明初の常州草虫画の優品 1 点を含む、1 割 30 点ほどの作品を拾い上げる機会を得たのは、学者として大いなる僥倖であった。なお、ピーボディ・エセックス博物館で調査撮影したのは、チャイナ・トレード・ペインティングを中心に 240 点余の作品である。

5. 今後の計画

先ず、これまでの実作品の調査研究による画像資料と文献資料の集積に、これからの 2 年間のそれを加える。既に集積した資料は、例えば、絵画班について、現時点での点数を示すと、国内：632 点、国外：3542 点であり、調査研究を続けつつ、全ての成果の整理を終える。その前後の適当な時点で、画像資料の分析・研究に入り、より多数の作品に共通するより普遍的な造形性の発見に努める。例えば、小川が見出した、中国五代・北宋時代以後の作品に通有の地平線の存在がそれであり、以後の作品の規範となり、中国画家の中国画家としての自己同一性の根幹となる。

6. これまでの発表論文等（受賞等も含む）
（研究代表者は二重下線、研究分担者は一重下線、連携研究者は点線）

(1) 朴亨國、「ベトナム・チャーキュウ出土リంగా祭壇基壇部の連続説話場面に対する新解釈」、『佛教藝術』、303 号、pp. 3-7、13-40、2009 年。

(2) 小川裕充「五代・北宋絵画的透視遠近法—中国伝統絵画的規範」、『開創典範：北宋的藝術与文化研討会論文集』、139-175 頁、2008 年

(3) 田中秀隆、「オーストラリア人アンデンティティと「国民絵画」——コモンウェルス大会を前にしたメルボルンを窓として——」、『美術に即した文化的・国家的自己同一性の追求・形成の研究——東南アジアから全アジアへ』（平成 16 年度～平成 18 年度科学研究費補助金（基礎基盤（A））研究成果報告書）、75-85 頁、2008 年。

(4) 板倉聖哲、「睢陽五老図像の成立と開展—北宋知識分子的の絵画表象」、『開創典範：北宋的藝術与文化研討会論文集』、325-345 頁、2008 年。

(5) Masuya, Tomoko, “The Mi'radj-nâma Reconsidered,” L.Koma-roff and J. Kerner eds., Festschrift for Prof. Soucek, *Artibus Asiae*, 67-1, pp.39-54, 2007.

(6) 西上実、「須磨コレクションの形成と記録性」、『中国近代絵画研究者国際交流集會論文集』、161-170 頁、2009 年。

(7) Shoichi Ota, “Modernization by the Monarch: Architectural Transition in Royal Capitals in Indochina,” *Proceedings of Whose EA-International conference on East Asian Architectural Culture*, pp. Chapter IV209-215, 2009.

*

(8) 小川裕充、『臥遊 中国山水画 その世界』により、平成 21 年 10 月、国華賞を受賞

ホームページ等

<http://cpdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/>